

学校法人 福岡成蹊学園 福岡外語専門学校 福岡国際コミュニケーション専門学校 平成29年度 自己評価表

	評価項目	評 価		課 題	今後の改善方策	特記事項
		④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切				
教育目標・教育理念	① 教育理念・教育目標は、定められているか。	4		国際社会のグローバル化という観点から、多様性・多国籍文化との共生を目指しており、まさしくこれからの社会で求められているものとマッチングしている。	学校として存在する以上、職員の資質向上は喫緊の課題であり、研修を起点として、積極的に取り組んでいる。	
	② 教育理念・教育目標は、社会のニーズに合っているか。	4				
学校運営	① 学校の教育目標に沿った運営方針・事業計画が策定し、運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。	3		教育目標に応じて、適正な事業計画等を作成している。また、具現化に向けて、理事会・評議員会・MGR会議・運営会議、さらには各部署単位の会議体が適切に運用されている。	今後の在籍学生数・教職員数の増減、また、周囲の状況の変化に伴う組織運営の変化等に対して速やかな対応ができる環境を整備する必要がある。	
	② 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3		WEBでの公開を実施。もう少し頻繁に更新することが望ましい。特に留学生向けの英語ページの更新が不十分。	学生の活動状況・資格取得状況等含め対外的アピール材料を再確認し、情報発信を行う。	
	② 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3		既存の学務管理SYSを活用。従来利用できていなかった部分についても今後活用を拡げることが課題。	課題解決に向けての方向性に対する共通理解を行う。	
教育活動	① 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3		教育理念・目標とする育成人材像の具体化については、イメージが先行しており、今後、具現化に対する全職員での共通認識が求められている。	年間授業計画表・指導上の留意点の作成等を起点として、学習時間の確保・学力向上に向けての共通理解を行う。	
	② キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか。	3		・より現場に近い講師陣の意見を積極的に取込み、インターンシップや資格対策授業の見直しなどを実施している。	より実践的な授業内容を目指して、カリキュラム編成を行う。	
	③ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が行われているか。	3		・国際ホテル観光ホスピタリティ・国際ビジネス実践コースにおいては実習・インターンシップを実施。	若干ではあるが、学科によりバラツキが見受けられるので、改善を目指したい。	
	④ 授業評価の実施・評価体制はあるか。	4		・専任教員による新任講師の授業見学及び指導の実施。同じく教案の事前チェックと指導の実施。 ・また、専任・非常勤の垣根を越えた相互授業見学の実施を始めたが、実行度にバラつきがあることが課題。	職員に対して、1週間の実績表の提出を義務付けているのと共に、今年度から実施している個人の自己評価表、それに基づく個人面談等を通して、客観的な評価を開始している。	
	⑤ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか。	4		・TOEIC、英検、情報処理、ワープロ検定、日本語能力試験、留学試験は、カリキュラム上で明確に位置付けている。	個別指導等を併用しながらの教育を行っている。今後も継続する方向である。	

	評価項目	評 価		課 題	今後の改善方策	特記事項
		④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切				
	⑥ 職員の能力開発のための研修等が行われているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・指導力向上に向けて、模擬授業を行い、授業力向上研修会を有志で実施している。 ・本校にて全専日協九州地区研修会を実施し、関係職員は全員参加した。 	全専日協の研修会を起点として、職員の専門性を高めるための研修会の定期的な実施を通して、職員の意識改革を図る。	
学修成果	① 就職率・資格取得率の向上が図られているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの企業からのアプローチにより、求人票の獲得数、企業説明会は増加の一途である。 ・資格取得者の表彰と告知を実施し、学習意欲の向上を図っている。 ・コース毎に TOEIC、英検、情報処理、ワープロ検定、日本語能力試験、留学試験を実施しているが、体系的な目標設定が不十分であり、今後、PDCAサイクルでの評価・改善の部分が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年々向上している。継続した企業は言うまでもなく、今後は、新たな企業を開拓し、更なる充実を図る。 ・個に応じたきめ細かな指導を基本として、全学科に渡って実施している。今後は更に、体系化を図り、職員等の移動等にも拘らず、高水準の指導を維持できるように努めたい。 	
	② 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学を果たした日本人学生の経験から英語科カリキュラムを改善。 ・社会人となった卒業生との連携の強化に向けて、現状の改善は必要である。 	卒業生を外的資源と考え、今後、本校の教育活動に対する協力・支援を求めて、系統的な働きかけを今後、継続する予定である。	今年度、第 1 回の同窓会総会を開催予定である。
学生支援	① 学生相談に関する体制は整備されているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・担任による個別面談の実施。 ・カウンセラーの再設置。 	必要に応じて、担任、カウンセラー等からの指導・相談等を充実させる。	
	② 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・JASSO 奨学金の活用。 ・学校奨学金制度の運用。 ・分割相談対応。 	様々な個別相談を実施している。教員の情報を事務局に伝える等情報収集に努める。	
	③ 保護者と適切に連携しているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率の変化（悪化）等含めて、随時、保護者と連携した指導をタイムリーに実施する。 	学生の状況に応じて、機を逃さず、保護者対応を行う。	
	④ 卒業生への支援体制はあるか。		2	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進学・留学支援等実施しているが、情報が不足しており、卒業後の就職支援体制が不十分である。 	外的資源となる卒業生の追跡調査が不十分である。同窓会を含めて、支援体制構築に向けて準備中である。	同窓会組織の設立を現在準備中。
	⑤ 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの定期的受入実施。 ・高校との交流の実施。 	高校生と本校留学生等の異文化交流を設定し、国際感覚の育成を助ける。	地域における、異文化教育の起点となることを目指す。
教育環境	① 学内の実習施設・インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか。		4	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修の場はアメリカ、フランス、タイ、中国、韓国と飛躍的に拡がり始めた。 ・ホテルコースについては、学校独自のインターンシップを展開。 	英語科の海外留学の機会は、年々充実の一途である。他コースの充実も図られており、他校に先駆ける教育を継続して行きたい。	
	② 防災に対する体制は整備されているか。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・組織化された体制の下、職員・学生の意識を高めている。 ・避難訓練を学期毎に実施している。 	命に関わる問題であり、学生を指導する職員の防災に対する意識を更に高める努力が必要である。	

	評価項目	評 価		課 題	今後の改善方策	特記事項
		④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切				
学生の受入れ募集	① 高校・高等専修学校等に対して情報提供等の取り組みが適切に行われているか。	4		・高校訪問、学校説明会等で、本校の情報の発信を積極的に実施している。	高校訪問の充実を図ると共に、学校説明会の対象校の更なる増加を図る。	
	② 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は、正確に伝えられているか。	3		・必要な情報を伝達しているが、これまでの統計の積み重ね等が不十分であり、今後の改善が必要である。	各部署での数値の統合に向けて、今後改善を図りたい。	
財務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	3		・学生数が安定し始め、健全な財務状況が継続している。	継続的に安定した学生数確保のため、多角的な視点で検討を重ねて行く。	
	② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	3		・学校ホームページでの公開を実施している。	職員等への説明を今後も継続する。	
法令等の遵守	① 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3		・監督官庁である県及び入管へ随時相談。 ・指摘事項については適切に対応している。	関係行政機関等への報告・相談等については、早期対応を心がけている。	
	② 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	2		・自己評価は2015年から実施。 ・次年度に活かす体系的な取組の充実を図ることが必要である。	PDCAサイクルでの、評価・改善に対する職員の意識を更に高める努力を行う。	
社会貢献・地域貢献	① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4		・小学校、高校に対して留学生を派遣し、グローバル化に伴う異文化共生の起点となっている。	異文化交流を起点とした社会貢献を更に充実させる方向である。	
	② 学生ボランティア活動を奨励・支援しているか。	3		・地域小学校と留学生の交流授業への参画。 ・不定期の外部の交流イベント・ボランティア活動に対して、学校として積極的な姿勢が今後さらに求められている。	地域貢献の一環として、ボランティア活動として小学校・高校との異文化交流を図っているが、更なる充実を目指したい。	
国際交流	① 留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行われているか。	3		・留学生受け入れについては、国籍に偏ることなく全世界的レベルで考慮し、併せて、リスクヘッジの観点も含めている。 ・海外への留学についても本校の中核となる英語学習をキーワードに派遣先を大幅に拡充している。	各国の日本語学校を定期的に訪問することにより、信頼関係を深め、学生募集を図る。日本人学生の海外大学留学に関して、更なる提携大学拡大を図る。	
	② 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4		・学習面、生活面については、担任制に基づいた早期対応を基本として、指導の充実を図っている。 ・生活指導面における、寮生の動向や、病気・事故等については、それぞれに担当を配置し、早期の対応を行っている。	担任制により、きめ細かな指導を行っている。また、緊急対応（事件事故）時には全職員挙げて、情報収集を図り早期解決に努める姿勢を持ち、今後も対応していく。	